

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 Wao! 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 12月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが日常的に過ごしている保育所・こども園・幼稚園等の集団生活の場면을直接観察し、実際の活動状況に即した具体的な助言や支援を行っている。	子どもが日常的に過ごしている集団生活の場면을丁寧に観察し、子どもの特性や強みを踏まえた具体的な関わり方や環境設定について訪問先施設へ助言を行っています。また、訪問先施設の職員と情報共有を行いながら、日常の保育の中で継続して支援が行われるよう意識して取り組んでいます。	今後は、訪問前に訪問先施設と子どもの現在の様子や課題について共有し、訪問時に重点的に確認する内容を明確にすることで、より効果的な観察と助言につなげていきます。また、訪問後には助言内容を整理して伝えることで、訪問先施設において継続的に支援が実施されるよう支援体制の充実を図っていきます。さらに、保護者とも訪問時の様子や支援内容について共有し、家庭・訪問先施設・事業所が共通理解のもとで支援を進めることで、子どもが生活全体の中で安心して過ごし、集団生活への適応力を高めていけるよう取り組んでいきます。
2	子どもの困り感だけでなく、得意なことや強みを活かした関わりを大切にすることで、子どもが安心して集団活動に参加できるよう支援している。	子どもの困難さだけでなく、得意なことや安心して取り組んでいる場面に着目し、強みを活かした関わり方や声かけについて訪問先施設へ具体的に助言しています。子どもが成功体験を積み重ねることで、安心して集団活動に参加できるよう意識して支援を行っています。	今後は、訪問前に訪問先施設から日常の様子について情報共有を受けることで、子どもの強みや興味関心をより的確に把握し、訪問時の観察や助言の充実につなげていきます。また、訪問後には子どもの強みや成長している点について具体的に伝えることで、訪問先施設においても強みを活かした関わりが継続されるよう取り組んでいきます。さらに、保護者とも子どもの強みや成長について共有し、家庭・訪問先施設・事業所が共通理解のもとで関わることで子どもが安心して集団生活に参加できるよう支援の充実を図っていきます。
3	訪問先施設と連携しながら支援の方向性を共有し、子どもが集団の中で安心して過ごし、主体的に活動に参加できるよう支援体制を整えている。	訪問先施設の職員と子どもの様子について情報共有を行い、子どもの特性に応じた関わり方や環境設定について具体的に助言しています。また、訪問後には支援内容や子どもの変化について共有し、日常の保育の中で継続して支援が行われるよう連携を図っています。	訪問前に訪問先施設と子どもの現在の様子や課題について共有し、訪問時に重点的に確認する内容を明確にすることで、より効果的な助言や支援につなげていきます。また、訪問後の情報共有を充実させ、支援の意図や具体的な関わり方について継続して確認を行うことで、訪問先施設において一貫した支援が行われるよう連携を強化していきます。さらに、保護者とも訪問支援の内容や子どもの様子について共有し、家庭・訪問先施設・事業所が共通理解のもとで関わることで、子どもが安心して集団生活を送り、主体的に活動へ参加できるよう支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援の役割や支援内容について、訪問先施設および保護者に対してより分かりやすく伝える工夫を行い、支援の意図や具体的な方法について共通理解を深めていく必要がある。	訪問支援は、訪問先施設での集団生活の中で実施されるため、訪問先施設の職員や保護者と支援内容について十分な説明や共有の時間を確保することが難しい場合がある。また、訪問支援は訪問先施設の職員への助言や環境調整を中心とした支援であることから、支援の目的や役割が分かりにくい場合があり、支援内容の共通理解の形成に課題が生じる要因となっている。	訪問前後に訪問先施設と子どもの様子や支援の目的について共有し、集団生活の中での具体的な関わり方や環境設定について分かりやすく助言を行っています。また、保護者に対しても訪問時の様子や支援の意図、子どもの成長している点について丁寧に伝えることで、園・家庭・事業所が共通理解のもとで支援を進められるよう努めています。今後も情報共有の機会を大切にしながら、訪問支援の役割や支援内容についてより分かりやすく伝える工夫を継続していきます。
2	訪問日の調整。	訪問支援は、子どもが日常的に過ごしている集団生活の場面で実施する必要があるため、訪問先施設の行事や日課、職員配置の状況等により訪問日の調整が難しい場合がある。また、対象児の体調や欠席状況によっても訪問日の変更が必要となることがある。	年度当初より訪問先施設と訪問予定について共有し、計画的な訪問が行えるよう調整していく。訪問先施設との連携を密にし、事前の情報共有や日程調整を丁寧にすることで、子どもが安心して集団生活を送ることができるよう、継続的かつ効果的な訪問支援の実施に努めていく。
3			